

## はじめに

『歴博甲本洛中洛外図屏風』には何が描かれているだろうか？ もちろん戦国時代の京都である。しかし、そこに描かれているのは実景ではない。実は歌や物語など文学が描かれている。これが本書の主張である。

中世絵画は注文者の依頼によって描かれたものであり、注文された画題を描いている。この点は、近代の芸術絵画が、見たものや、構想を絵に描き、自己表現したものであるのとは全く異なる。絵画は芸術作品ではなく調度品であり、絵師は芸術家ではなく職人であった。洛中洛外図など中世絵画を分析するさい、このことを忘れてはならないだろう。

「やまと絵」は、故事・詩歌を描く「唐絵」に対する言葉で、「やまと絵」には歌や、物語が描かれた。つまり、そこに描かれた川や町は実景ではなく、描かれた文学へと導く手がかりである。鑑賞者たちは教養で描かれた文学を読み解いたのである。つまり、本書は注文主であり鑑賞者でもある公家等、当時の人の視点に立って洛中洛外図屏風を読み解かなければならないと主張しているのである。

---

このような視点に立って検討した結果、現存最古の洛中洛外図屏風である『歴博甲本洛中洛外図屏風』は、十二代將軍足利義晴が注文し、父義澄・恩人細川高国の歌・物語を描いた「歌・物語絵屏風」であることを論証した。詳しくは本論を読んでいただきたい。

まずは、当時の人が見ていたように絵を見よう。おかしい表現は絵師のミスではなく、注文者の自己表現でもない。「歌・物語」という非現実を描いているのだから、現実と違っているのは当たり前である。むしろ、「不自然」な点にこそ、どのような「歌・物語」が描かれているのかを示すヒントが隠されている。絵の中に巧に隠された「歌・物語」を読み解いていこう。それは、將軍義晴が残したメッセージを読むことなのである。

二〇二〇年一月

小谷量子

目次

口絵

はじめに……………(i)

序論 歴博甲本洛中洛外図屏風研究史と本書の構成……………1

はじめに……………1

第一節 洛中洛外図屏風研究史……………4

第二節 本書の課題と構成……………13

第一部 歴博甲本洛中洛外図屏風に描かれた戦国期京都について……………21

第一章 歴博甲本洛中洛外図屏風 将軍邸近辺の空間構造……………23

はじめに……………23

第一節 小川御所と宝鏡寺・南御所の位置……………25

第二節 細川勝元・政元邸の位置……………30

第三節	大永度御所と細川高国・晴元邸の位置	35
第四節	戦国期京都の状況	41
おわりに		46
第二章	歴博甲本洛中洛外図屏風に描かれた比丘尼御所の住持	57
はじめに		57
第一節	戦国期三時知恩寺の住持	61
第二節	戦国期大慈院(南御所)の住持	67
第三節	戦国期宝鏡寺の住持	72
第四節	戦国期曇華院(通玄寺)の住持	78
第五節	戦国期光照院の住持	84
おわりに		85
第二部	歴博甲本洛中洛外図屏風に描かれた歌・物語絵	95
第一章	歴博甲本洛中洛外図屏風に描かれた歌絵	97
はじめに		97

目次

第一節	細川高国辞世の句	102
第二節	足利義澄文亀三年三十六番歌合	113
おわりに		155
第二章	三条西邸鶯合と近衛邸の風呂	167
はじめに		167
第一節	三条西邸鶯合	168
第二節	近衛邸の風呂	177
第三節	足利義晴と細川高国	183
おわりに		188
第三章	祇園会再興と足利義澄	197
はじめに		197
第一節	祇園会再興関係幕府文書発給人	201
第二節	祇園会と将軍	218
第三節	祇園会見物	229
第四節	祇園会再興理由	238

おわりに	242
第四章 足利義澄の観能と参内	255
はじめに	255
第一節 足利義澄と観世能	259
第二節 足利義澄と参内	270
おわりに	282
第五章 宝鏡寺・南御所の所領と歴博甲本に描かれた白布	291
はじめに	291
第一節 宝鏡寺・南御所の根本所領	292
第二節 足利義澄と白布棚公事	299
第三節 宝鏡寺白布伸子張りとは義澄	313
おわりに	317
第六章 歴博甲本制作契機と『融通念仏縁起絵巻』	323
はじめに	323
第一節 甲本制作契機	325

第二節	『融通念仏縁起絵巻』と洛中洛外図	339
おわりに	.....	359
第三部	室町後期歌絵	369
第一章	室町後期における歌絵享受	371
はじめに	.....	371
第一節	やまと絵と景物画、近世初期風俗画の研究史	373
第二節	室町後期における歌絵の事例	376
第三節	工芸品に見る歌絵	384
第四節	初期洛中洛外図屏風にみる歌絵	387
おわりに	.....	393
第二章	歌絵・物語絵の表現手法	403
はじめに	.....	403
第一節	歌絵の表現手法	405
第二節	歌・物語絵と異時空間同図	415

第三節 絵画表現と絵画制作	419
おわりに	421
補論 「伊勢物語」二十三段 筒井筒について	425
はじめに	425
第一節 男の歌について	429
第二節 男の身分と高安の女の身分について	430
第三節 「けこ」の器物について	432
第四節 「手づからいひがひとりとて」について	433
第五節 「心憂がり」になった理由	436
第六節 高安の女の歌	439
第七節 大和の女と高安の女の「粧う」	442
まとめと結論	445
補論 藤原重雄氏「上杉本「洛中洛外図屏風」をめぐる 新説について——行列従者・輿の理解——」について反論	453
はじめに	453

一、興	454
二、小者の人数	455
三、絵の読み解きについて	461
おわりに	466
結論	
歌・物語絵としての歴博甲本洛中洛外図屏風	471
はじめに	471
【本書のまとめ】	472
【総括】	481
初出一覧	487
図版出典一覧	489
あとがき	493
索引	左1